

令和3年度研究推進計画

学校名 東広島市立豊栄小学校

学校長名 曾根 芳子

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

自ら学び，豊かに表現する児童の育成
— 国語科における「読む力」を育てるための授業改善を通して —

(2) 研究主題設定の理由

複雑化する社会変化の中で生き抜くためには，自らの考えをしっかりともち，多様な考えを認めながら他者と対話し協働してよりよい方向を目指す力が必要である。

小学校学習指導要領では，児童生徒の発達の段階を考慮し言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう，各教科の特性を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとされている。

また「(略) 言語能力の育成を図るため，各学校において必要な言語環境を整えるとともに，国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて，児童の言語環境を充実すること。あわせて

(略) 読書活動を充実すること。」と示されている。また，「国語編」では，国語科の目標を「言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」としている。児童が正確に情報を理解し，適切に伝える力を身に付け，他者との対話することでよりよい方向を見出せる力を身に付けるために，国語教育はますます求められる。

本校は昨年度「道徳的価値を深め，自ら表現する児童の育成～議論を生む主発問と道徳的価値を深める問い返し発問の工夫を通して～」を研究主題に設定して，授業改善を行った。教材から道徳的価値を深める中心場面を見付け，発達段階に応じた思考の深まりを促す発問の工夫することで，自分の考えを表現し，道徳的価値について追及しようとする児童が増えてきた。一方課題としては，表現することに自信がある児童が固定化し，自分の考えを話したり，書いたりすることに苦手意識のある児童は，十分にその思いを表現することができなかつたことがあげられる。また，自分の考えを話したり，書いたりすることが苦手な児童は，国語科の学習への意欲が低いことや，CRTの結果からも説明文の読解力が低いことが課題として明らかになった。

【CRTにおける各学年の説明文の正答率】

第1学年	
正答率	目標値
37.5	55.0

第2学年	
正答率	目標値
73.8	75.0

第3学年	
正答率	目標値
59.6	51.7

第4学年	
正答率	目標値
53.7	50.0

第5学年	
正答率	目標値
60.8	61.7

第6学年	
正答率	目標値
86.7	60.0

これらの結果から、国語科の授業を「わかった、できた」のある授業、学ぶおもしろさや喜びの感じられる授業にしていくために、画一的な一斉の授業を改善し、一人一人が「わかる、できる」ために授業内容を多様化したり、児童の興味・関心を生かした学習方法を工夫したりする必要を感じた。

そこで、本年度は、国語科を研究教科とし、児童が国語科に興味をもち、自ら学ぶ意欲を高められるような授業改善に取り組んでいきたいと考え、研究主題を「自ら学び、豊かに表現する児童の育成」と設定し、副題を「国語科における『読む力』を育てるための授業改善を通して」とした。特に、説明的文章の学習において、児童にとって価値ある必然的な言語活動の場を設定し、教材文から学んだ表現を使って、言語活動の中で自分の考えを表現することで、言葉を使って表現する喜びを味合わせていく。さらに、学習過程に児童の選択・自己決定による個別学習を位置づけ、児童に学びの振り返りをさせることで読みの力、つまり「わかった、できた」という実感を深めさせることができると考える。

(3) 研究仮説

一人一人が目的を明確にして自ら学ぶ主体的な言語活動の場を工夫すれば、児童は主体的に思考・判断・表現し、確かな読みの力を身に付けることができるであろう。

(4) 研究内容

①理論研究

説明的な文書の「確かな読みの力」と系統性について研修する。

- ・各学年の説明的文章の教材で、どんな力を付けるのか明らかにしていく。
(学習指導要領との関連)
- ・児童の読みの力の分析を行う。

②実践研究

ア 学習者（児童）から授業を発想する。

- ・学習者の実態を国語科の学習の過程でとらえるために、学習者の実態をとらえる学習活動を設定する。例えば、本の紹介や体験的な学習等の小さな学習を計画したり、診断的な評価の目的で小テストを実施したり、興味・関心を調査したりすること等。

イ 児童に付けたい力を明確にし、実態に応じた単元の構想と言語活動を設定する。

- ・言語活動の吟味を行い、指導目標の面からも学習者の視点からも適切な言語活動を選択する。

ウ 個別最適な学習を工夫する。(個に応じた指導の工夫)

- ・「わかった、できた」と実感できる振り返りの場を設定する。

(5) 検証の方法及び指標

① 付けたい力にふさわしく、児童の実態に応じた言語活動であったか。

- ・授業評価表における肯定的評価の割合80%以上
- ・児童の発言、ノート、ワークシートの記述

児童、教師の意識調査で肯定的評価80%以上

② 自己評価や相互評価を取り入れながら振り返ることで、児童に読みの力が付いたことを実感させることができたか。

- ・自己評価表，相互評価，児童の振り返りの記述 等
- ・単元末テストの平均通過率85%以上

2 検証計画

月	検証内容	検証方法
4月	・児童意識調査	・児童振り返りシート実施
5月	・理論研修	・検証の指標
6月	・授業研究の指導案検討 ・検証授業（5年）	・指導案検討実施 ・検証の指標，授業評価表，児童の振り返り
7月	・授業研究の指導案検討 ・検証授業（2年）	・指導案検討実施 ・検証の指標，授業評価表，児童の振り返り
9月	・授業研究の指導案検討 ・検証授業（にこにこ学級）（1年） ・児童意識調査	・指導案検討実施 ・検証の指標，授業評価表，児童の振り返り
10月	・授業研究の指導案検討 ・検証授業（3年），児童意識調査	・指導案検討実施 ・検証の指標，授業評価表，児童の振り返り
11月	・授業研究の指導案検討 ・検証授業（4年），児童意識調査	・指導案検討実施 ・検証の指標，授業評価表，児童の振り返り
12月	・授業研究の指導案検討 ・検証授業（6年），児童意識調査	・指導案検討実施 ・検証の指標，授業評価表，児童の振り返り
1月	・研究のまとめ	・成果と課題の整理

3 校内研修計画

月	研修形態	内容等
4月	全体研修	・本年度の研修の方針・概要 ・研修推進計画などの理論研修
5月 （ 12月	全体研修 ① 理論研修 ② 模擬授業 ③ 授業研究 ④ トピック研修	【授業者】 6月研究授業（5年）三上明佳 7月研究授業（2年）神信正彦 9月研究授業（にこにこ学級）三笠悟美 （1年）荒谷容子 10月研究授業（3年）佐藤 紬 11月研究授業（4年）日下部嘉常 12月研究授業（6年）眞鍋ゆう ・教材研究 ・指導案作 ・指導案検討 ・研究協議
12月	全体研修 個人研修	・研究の検証 ・研究紀要作成
1月	個人研修	・研究紀要作成
2月	全体研修	・1年間のまとめ，来年度に向けて

4 研究公開の予定について

公開予定日	なし
-------	----